

近代日本・学びのモノづくし 教育掛図・博物図・標本画の図像研究

社会福祉子ども学科 福祉子ども学専攻
牧野 由理 准教授

【研究分野】 美術教育学、美術教育史、芸術学
【キーワード】 幼児造形教育史、美術教材史、教育掛図、博物図、標本画
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=208maki>



研究概要

近代日本の子どもたちの視覚イメージの源泉を探るため、教育用の絵図や教育掛図、保育記録、教科書、錦絵、雑誌、書籍などの“モノ”を対象として研究しています。さらに教育掛図の原画となった博物図や標本画、それを描いた画家にも焦点をあて図像研究もすすめています。

研究紹介

1. 幼児の造形教育史に関する研究

明治から戦前までの幼児教育の現場でどのような造形教育が行われていたのか、現存する子どもの絵や保育者による保育記録、教材、手本等を分析し研究しています。

2. 教育掛図に関する研究

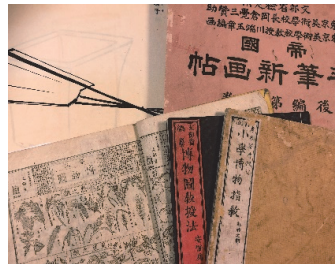
教育掛図とは、教室の黒板や壁に掲げた教授用の大判絵図や表などを指します。欧米から輸入され、幼児教育から大学教育まで幅広く使用されていた教材です。制作に携わった画家や製作者、印刷者等について研究しています。

3. 博物・標本画家についての研究

教材の原画としても扱われた博物図譜や標本画について美術史の観点から研究しています。近代生物学者の標本画家でもあった画家・佐久間文吾についての研究をすすめています。



教育錦絵（筆者所蔵資料）



図画・博物教科書（筆者所蔵資料）

講座テーマ紹介

幼児の造形教育の歴史、美術教育史、美術教材史、教育掛図に関する講演を美術館等で行っております。

アピールポイントなど

国立科学博物館の協力研究員として、美術史の観点から教育掛図や標本画に関する研究をすすめております。